慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中国語教育における「異音同形語」の指導について： 日本人学習者を対象とした語彙論的考察を中心に
Sub Title	Teaching method of heteronym in Chinese language education : a lexicological consideration for Japanese-learners
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション (Keio University Hiyoshi review. Language, culture and communication). No.52 (2020.) ,p.13- 30
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20201231-0013

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

この著作物は著作権法によって保護されています／ This content is protected by the Japanese Copyright Act

中国語教育における「異音同形語」の指導について
――日本人学習者を対象とした語彙論的考察を中心に――

浅野　雅樹

1. はじめに

中国語の“还”，“好”はそれぞれ“hái-huán”，“hǎo-hào”という二つの音をもつ。周知のとおり，中国語にはこのように一つの語（字）について全く異なる発音で読むことや，声調が異なる二つの音声である多音の現象が存在する。中国語教育において，これらは一つの指導事項であるとの認識や理解が大多数の教師にあると言える。日本人学習者にとっては，一つの漢字が複数の読み方を有する言語現象は母語の日本語では珍しくないため，中国語のこのような多音字（語）に対してもある程度の受容力があると見られる。しかしながら，“数 shǔ-shù”や“处 chǔ-chù”など，日本語にはない声調によって品詞の区別をする例は学習上，一定の困難が伴う。さらに，“打 dǎ-dá”，“只 zhī-zhǐ”，“挑 tiāo-tiǎo”の例のように，一方の音で読まれる語は日本人学習者にとって比較的容易であるが，もう一方は漢字からの語義の類推が難しい場合，母語の干渉が生ずることもあり得る。

本稿は学習者への語彙指導という観点からの考察を行うため，これらの言語現象を主に語彙論の範疇に属するものと見なし，「異音同形語」と称する[1)]。教育実践の場で使用されるテキストや辞書を参照し，日本人の中国語学習者に対する異音同形語の効果的な指導についての探究を目的とした論考を行う。

2. 中国語の「異音同形語（多音字）」とは

前章で挙げた“还”や“好”が二つの音をもつという言語現象は，文字の範疇から言えば

1） 万艺玲（2010：78）には“同形词根据读音是否相同，可分为同音同形词和异音同形词。”という記述があり，“异音同形词”「異音同形語」という名称が見られる。その例として，“假jiǎ-jià”“长cháng-zhǎng”“还hái-huán”“合计héjì-héji”などを挙げている。

「多音字」であり，語彙の範疇から言えば「異音同形語」や「異読語」となる。一つの文字や語が二つ以上の発音を持つことに関して，主にその発生要因やそれぞれの音声が示す意味・用法の相違の有無などの問題が生ずる。中国の研究・教育界においては，以前からこのような問題に対して注目が集められていた。“多音字”，“多音词”，“异音同形词”，“异读词”，“破读”など，多くの呼称が用いられ，様々な観点から多くの論文や論評が見られる。異音同形語の定義の問題についてもよく議論がなされるが，曹炜（2004）で述べられるように，意味の相違が認められる例は，その差異の大小を問わず異音同形語である[2)]。一方，音による意味の相違がないものは異読語であるとの定義づけが一般的である。しかし，二つの音声による意味の関連性の有無や相違については，分析者の判断により異なることが多い。この両者の境界線は必ずしも明確になっているわけではない。異音同形語とは何かという定義づけの問題も含め，ある具体的な事例が「異音同形語」なのか，或いは「異読語」なのかという判別も，分析者により見解の不一致が見受けられる[3)]。

学習者に対する指導という側面から考えると，一口に多音の現象と言っても様々なタイプがあることに注意しなければならない。“还 hái-huán”や“长 cháng-zhǎng”などの例は，ともに単独で使用できる語であり，また意味・用法の相違がある。全く異なる二つの語が同一の文字形式を持つものとして，語彙指導上の問題とする必要性があると言える。一方で，“血 xiě-xuè”，“给 gěi-jǐ”などは“还”や“长”の例とは異なる面がある。片方の“xuè”，“jǐ”の音は単独での使用はほぼ不可能で，語の構成要素の形態素としての使用に限定される。またこの二つの音に意味の相違は認めにくいため，厳密に言えば異音同形語というより，文字の範疇の事象として，一つの字が複数の音をもつ「多音字」であると見なすのが妥当である。このタイプについては，とりわけ初級段階の語彙指導上の問題とする必要性は低く，どちらかと言えば，中級段階以上における指導事項と位置付けることができる。また，“地道 dìdao-dìdào”や“人家 rénjiā-rénjia”のような二音節の語において，二つの音で意味・用法が異なる現象は，異音同形語という語彙の範疇にあるものである。通常は“道”が“dào-dao”，“家”が“jiā-jia”という二つの音を有する多音字であるとは見なさない。

2） 曹炜（2004：223）には，以下のような記述があり，参照した。

异音同形词与异读词比较容易相混，那是因为两者均表现为词的书写形式相同而语音形式不同。其实两者的区别还是比较明显的：异音同形词不管是意义有联系的还是意义没有联系的，在意义上毕竟存在着差异，是不同的几个词；而异读词，如“呆、准、血、绕、露”等，虽然存在着两种语音形式，但意义完全相同，是同一个词的词位变体。

3） 申慕野（2013：365）を参照。

3. 対外漢語教育における「異音同形語」の問題に関する研究

中国語の文字や語の多音の現象は，異体字，同形字，文白異読，方言音などに起因して発生するとされる。中国語語彙論研究の領域においては，主に通時的な観点からの研究が盛んに行われている。ある文字の発音が複数ある場合，とりわけ教育の場では，どの音が正しく規範であるのかという問題に対して，審査と決定が必要となる。前章でも述べたが，これらの「多音字」や「異読」の問題については，中国国内の言語文字教育における非常に重要な問題の一つであった。現在，使用されている辞書や教材においては，おおむね 1985 年に“国家语言文字工作委员会”により発表された《普通话异读词审定表》に準じていることが分かる[4)]。中国では，多くの「多音字（多音語）辞典」が出版されているが，これらは外国人留学生を対象としたものというより，母語話者の語文教育用の辞書として，規範音の表示を主眼に置き編纂されているものがほとんどである。研究面でも，中国国内の語文教育における「異音同形語（異読語）」や「多音字」を主題とした膨大な数の研究成果が発表されている[5)]。ただ，外国人留学生を対象とした対外漢語教育の面での研究は少なく，語彙指導における異音同形語の問題には未解明な点が多々ある。その注視度は国内の語文教育と比較すると，それほど高くない状況がうかがえる。管見によれば，以下の研究が見られる。

申慕野（2013）では，対外漢語教育における異音同形語の問題について，《新汉语水平考试大纲 HSK 词汇》を基準として，その 1，2 級に相当する語を示している。また学習者のエラーで多い事例を挙げ，分析を行ない，非漢字文化圏と漢字文化圏の学生に分けて，指導方法の提案がなされている。郭芃（2016）では，対外漢語教育における多音字の問題について，《新汉语水平考试大纲 HSK 词汇》を基準として，その 1 ～ 3 級において相当する語を示している。各級に含まれる語の総数における多音字を含む比率は，1，2 級が 22%，3 級が約 24% であると述べている。また初級レベルの学習者に対する多音字指導の原則として，「(一）先易后难原则（二）循序渐进原则（三）及时重复原则（四）选择性教学原则（五）趣味性教学原则」という 5 つが示されている。欧阳国亮，杨春宇（2009）では“别义异读字”「別義異読字」という名称を使用し，これらが中国語を学習する留学生にとっての読解や単語の理解の面で影響があることを指摘する。「別義異読字」の意味理解についての指導の対策として，前後の文脈から判断すること，常用度が高いものから段階的に学習すること等を提起している。万莹，赵贤德（2011）では，中国の大学に長期留学している中級から上級レベルの中国語学習者を対象とした「異読語」の習得状況の調査結果が示される。「異読語」をその性質や特徴に応じて，いく

4） 万莹，赵贤德（2011：126）を参照。

5） 主に多音字の規範音を主題とした日本で発表された研究論文には，曽根（1992），山下（1998），黄名時（2004）がある。

つかのタイプに分けて調査が行われている。その結果，軽声を含む異読語，形態素義の意味の区別が明確な例は難易度が比較的低く，文白異読の例や形態素義の区別が明確ではない例は難易度が高いとの指摘がある。

上述した研究はすべて中国の対外漢語教育において異音同形語や多音字をどのような方法と内容で指導するのがよいかという観点からの論考であり，非常に示唆に富んだ知見が数多く盛り込まれている。中国の大学等で中国語を学習する留学生に対する調査結果に基づき，主に語彙論や教育論の観点から，具体的な指導方法を含めて，様々な実践例も発表されている。

本稿はこれらの研究を参照して，日本における教育実践の場への導入について論考する。文字指導ではなく，日本人の中国語学習者を対象とした語彙指導に対する調査と考察を行なうという理由により，本稿では「異音同形語」という名称を用いる。ある字や語の音声がどのようであるべきで，どの音を正しく規範性が高いと認定して教えるのかという観点からの考察は行わない。したがって，異音同形語の定義や規範音の問題には立ち入らない。明らかに意味・用法が異なる例のほか，“给”や“好”のように一方の例が単語としての独立性が低い例，また“血”や“薄”のように意味に相違が認めにくいものを含めて，一律に異音同形語として考察の対象とする。そして，主に語彙論の視点から，どのような指導が相応しいのかという教育上の一つの問題の解決を趣旨として，論考を進める。辞書や教材への導入状況や提示内容を調査し，具体的な事例に対する考察を行い，学習者への語彙指導としての問題点を指摘する。その上で，漢字の知識を持ち，字義から語義の類推が可能である日本語を母語とする学習者に対する異音同形語の効果的な指導方法と内容の究明を試みる。

4. 中国語テキストにおける「異音同形語」について

以下に示すのは，「日本中国語検定試験」の問題である。提示した単語について，その正しい発音を選ぶ形式である。

⑽ 重新　　① chóngxīn　② chóngxīng　③ zhòngxīn　④ zhòngxīng

（日本中国語検定試験第 99 回 3 級，日本中国語検定協会 HP より）

上に示したような多肢選択方式の問題で，診断基準となっているのはまさに異音同形語であると見なせる。“重新”における“新”が前鼻音か後鼻音のどちらかという音声面の領域における知識が問われる。それと同時に“重”は，“zhòng”が基本的に「重い」という形容詞的な意味を示し，さらに「重ねる」という動詞的な意味の時は“chóng”であるという理解の有無を測る問題である。

このような問題が日本中国語検定試験で使用されていることからわかるように，異音同形語

は語彙学習における重要な学習事項の一つであると言える。しかしながら，大学等で使用されている授業用のテキストに異音同形語もしくは多音字が明示的学習項目として導入されることは極めて稀である。テキストでは「新出語句（語釈）」の箇所において，例えば，

重：zhòng　重い（注意：「重ねる」という意味の時は“chóng”と発音する）

といったような形で，異音同形語に関する注記が可能である。しかし，筆者がこの度調べた日本で出版されたテキストには，別の発音がなされる場合はその他の意味・用法を示すといった簡潔な表記もほとんど見当たらなかった。一方，中国の対外漢語教育で使用されているテキストを見ると，以下に示すように，一部のテキストにおいては「多音字」という学習項目を立てて，詳細な説明がなされている[6)]。

区别多音多义字　Distinguishing the characters with multiple pronunciations and meanings

Eleven percent of the 3,500 most commonly – used Chinese characters have multiple pronunciations and meanings. For example,“还”has two pronunciations. When used as an adverb, it is pronounced “hái”, as in “还有, 还想 ” ; when used as a verb, it is read as “huán”, as in “还书, 还贷款 ”. “好” also has two pronunciations the first, “hǎo” as in “好书, 好地方” and the second, “hào” as in “爱好”. The meanings expressed by the different pronunciations are completely different, so we must be careful to distinguish them.

《新实用汉语课本 3》203 页

多音词

多音字，就是一个字有两个或两个以上的读音，不同的读音表义不同，用法不同，词性也往往不同。

多音字有以下几种用法：

（1）读音有区别词性和词义的作用。如，“将”：jiāng（可作动词或副词等），动词表示“带领”，副词表示“将要”, jiàng（名词），表示“将帅”或”大将”的意思；再如“划”huá（划船）-huà（计划），“假”jiǎ（真假）-jià（放假），“便”biàn（方便）-pián（便宜）

（2）使用情况不同，读音也不同，读音有区别用法的作用。如“薄”：báo，不厚的意思，一般单用，如薄饼、薄纸；bó，一般用于合成词，如薄礼、厚古薄今；bò 如薄荷（专有名词）。

（3）语体不同，读音不同，读音有区别语体的作用，主要体现为口语和书面语等。如“给”：

6）筆者の調査によると，中国の対外漢語教育用のテキストでも，すべてのテキストにおいて，このような「異音同形語」や「多音字」に関する内容の提示があるわけではない。

口语读 gěi；书面语读 jǐ，如给予、给养。
《魅力汉语》综合第五册　江苏大学出版社　50 页

筆者は日本の大学等で使用される初級の総合テキストにおいても，所謂「語彙論体系知識」を明示的学習項目として文法事項と同列に扱い，各課の「ポイント（学習項目）」に取り入れることを主張してきた。ただ，教育実践の現場から見ると，とりわけ第二外国語のカリキュラムにおける中国語教育は実用的な語学の授業としての側面が強調されるため，すべて明示的に教授するのは，時間的な制約もあり現実的ではない。したがって，数多くある語彙論における事項から，重要度が高く不可欠なものを精査した上で，選定することが課題となる。「“春”，“服”，“友”などの付属形態素」，「離合詞」，「接辞に関する派生語（語構成）」，「類義語・反義語」，「語の位相」などの重要な語彙論における事項はいくつかある。異音同形語の事例や問題についても，これらに比肩する重要な項目であると見なすことができる[7)]。これらの語彙論に関する知識の獲得は，文法論における主要事項と同程度の重要性がある。またこれらが学習者にとって所謂「宣言的知識」としてだけではなく，更なる学習や練習を通して「手続き的知識」となり得ることも軽視できない。つまり，「話す，書く，聴く，読む」という言語技能に関する能力向上に対しても，大きな作用をもたらすことが考えられる。“重 zhòng-chóng”，“都 dōu-dū”，“降 jiàng-xiáng”，“把 bǎ-bà”など，発音により意味・用法に大きく差異がある例は，「読む」という技能の面との関わりが見出せる。また“教 jiāo-jiào”，“数 shǔ-shù”，“处 chǔ-chù”など声調により品詞が異なる例は，とりわけ「話す」という技能の向上と深い関わりがあると見なせる。「読解」という言語活動の中で，日本人学習者は字義から未習語に対する語義の類推がある程度可能である。例えば，“全都”，“外行”，“重建”などのような語に対して，その中の“都”，“行”，“重”の発音がそれぞれ“dōu-dū”，“háng-xíng”，“chóng-zhòng”のどちらの音で読むのが正確なのか判別できれば，正しく語義を読み取る可能性が高まる。

学習者の効率的な語彙学習という側面から考えれば，上で示した対外漢語教育用のテキストの事例のように，異音同形語を学習項目として導入することが理想的である。学習者にとって，個々の事例を断片的に学習する一方で，それらの言語現象を一般化した語彙論における体系性を伴う知識としての指導を受けることは決して無駄ではないと考える[8)]。

7）郭芃（2017：74）では，中国で中国語を学習する様々なレベルと母語の学習者に対する“多音字”に関するアンケート調査と理解度テストの結果が示されていて，大変興味深い。その中の一つに“您知道汉语中有多音字吗？”という調査項目があるが，“知道”が 86.09%，“不知道”が 13.01%との結果が示される。日本の大学等で学習する学習者に同じような調査を実施した場合，“知道（知っている）”と回答する比率がやや低くなることが見込まれる。

5. 辞書における「異音同形語」の表記について

中国語の《现代汉语词典（商务印书馆）》などの一般辞書では，見出し字の説明（語義記述）の最後に，“另见○○页”という表記により，異音同形語の存在が示される。また中国では，これらの一般辞書のほかに，《现代汉语学习词典（商务印书馆）》，《学汉语词典（商务印书馆）》，《汉语教与学词典（商务印书馆）》といった対外漢語教育学習者向けの学習辞書が出版されているが，異音同形語に関する表記は一般辞書と基本的に同様である[9]。また，日本で出版されている二言語辞書の多くは，中国の辞書と同様，見出しの字の説明（語義記述）の最後に「異読」という表記を使用している。この表記により別の発音で読まれる語があることを辞書のユーザーに知らせる体裁を用いているものがほとんどである。

中国では，多くの“多音字多音词词典”「多音字多音語辞典」が出版されているが，そのほとんどは国内の語文教育向けである。外国人の学習者に対する語彙学習の用途と言うより，どちらかと言えば，字の規範音を示す目的で編纂されている辞書が多い。筆者はこのたび，《现代汉语多音字多音词辨析词典（上海辞书出版社）》という辞書を調査対象として考察を行った[10]。本辞書では，複数の音を持つ約 1000 の見出し字について，例えば「降　㊀ jiàng　㊁ xiáng」「散　㊀ sàn　㊁ sǎn　㊂ san」「令　㊀ lìng　㊁ lǐng　㊂ líng」のように表記がなされる。また二つの音に，ほとんど意味・用法上の差異がないと見なされた場合や一方の音がかなり特

8）喜屋武（2003：124）では，国語教育に対する語彙指導に関して以下のように述べられている。

「語彙・辞書の指導」というとき，言語教育としての「語彙論の指導」（および，その内容の一部としてふくまれる辞書についての指導）を問題にしているのか，あるいは言語活動の指導のなかでおこなわれる「単語指導」（および，辞書びき作業）を問題にしているのか，区別しておく必要がある。前者において指導の対象となるものは，語彙的な側面からみた日本語の体系的な事実であり，後者においてのそれは具体的な発話やテキストにおけるいちいちの文のなかでもちいられている個々の単語（とくにその意味）であって，その対象の性格によって指導の方法も，それぞれ一般的・体系的／個別的・経験的といった傾向のちがいがある。

上記の「語彙論の指導」と「単語指導」という二つの概念は国語教育を対象になされた指摘ではあるが，中国語教育においても応用できる。本稿で取り上げる「中国語語彙論体系知識」は，この「語彙論の指導」の内容と相応するものとして位置付けたい。

9）安华林，刘娅琼，安妮，李玉晶（2020：175）には《商务馆学汉语词典》と《现代汉语词典第五版（商务印书馆》の「異音同形語」の処理について，以下のような記述が見られる。

需要注意的是，《学汉语》和《现汉 5》对同形同音词的处理不同，但对兼类词和同形异音词的处理相同。两本词典的兼类词都归在一个条目之内，同形异音词都分别立目。

10）本辞書の“前言”に以下のような記述がある。

本词典供各级各类学校师生学习和教学汉语使用，也可供语言文字工作者及其他读者使用，还可为国内外每年数百万参加普通话培训测试者提供参考。

殊で規範的ではない場合は，又音として「“焘 dào　又 tāo”」にように示している。見出し字のそれぞれの音の語義記述を付し，複数の用例が示される。一般辞書では通常，異音同形語は別の頁に表示されることが多く，二つの語を視覚的に見比べて，一方の音とさらにもう一方の音で読む時の相違を知ることができない。ただ，多音字辞書では，両者の間の相違が明確になるよう，音声の提示のほか，その字が語を構成する形態素となる複音節語の用例も複数表示される。

複数の音を持つ一つの文字について，それが具体的にどのような音であるのかという音声情報の表記が，多音字（多音語）辞書の主な役割である。これらの基本的な情報に加え，ほとんどの辞書では【辨析】といった表記の箇所で，二つの音で示される語の形式，意味，用法，語用，規範性，修辞的な情報，歴史などの相違に関して，事例を挙げながら表示している。《现代汉语多音字多音词辨析词典（上海辞书出版社）》では，「“词性”“构词能力”“词义着重点”“适用范畴（范围）”“指称对象”“表义范围（功能）”“语法功能”“语体色彩”“使用频度”“词语修辞方式”“字音沿革状况”“音源”“语音归属”」というように多数の面から異音同形語（多音字）の解釈がなされている[11]。これらから，見出し字（語）の多音の情報のみならず，語に関する意味や用法，或いは語用面での特徴を学び，様々な語彙情報を得ることができる。とりわけ二つの音で示される意味にわずかな差異しか認めれられない例は，類義語の弁別と類似したような解析と説明がなされ，学習者にとっては有益である。

《现代汉语多音字规范字典（上海辞书出版社）》という辞書では，以下に示すように各見出し字の解説の最後に，辞書のユーザーが自ら理解度を確認するための【自测题】を提示する。学習者に練習問題の形式で，それらの区別を認識させようとする工夫がなされている。

【自测题】请在下面括号中写出正确的读音：
假（　）日上街，买了假（　）货。
真假（　）难分，假（　）戏真做。　　（70 页）

【自测题】请选出下面加点的字读音完全相同的一组：
A. 轻率　表率　率意任性
B. 利率　直率　率真　　（128 页）

また，辞書ではないが，《多音字学习手册》という学習書では，それぞれの見出し字に［句辨］という欄が設けられる。ユーザーに練習をさせる用途で，以下に示すような二つ以上の音

11）例えば，“降”は“词义着重点”，“散”は“词性”“词义着重点”，“令”は“词性”“适用范畴”“音源”“使用频度”が区別の解説に用いられている。このように一つの見出し字に対して，1～4 つの項目が使用されている。

が含まれる，いわゆる“顺口溜”を付している[12]。

［句辨］
给（gěi）我一本书，能家给（jǐ）户足。衣服给（gěi）淋湿，要给（jǐ）予帮助。给（jǐ）水工程好，给（gěi）人民造福。需补充给（jǐ）养，给（gěi）面子老苏。要及时补给（jǐ），配给（jǐ）勿延误。　　（37-38 页）

6. 教育実践の場における「異音同形語」の指導について

6.1 中国語の語彙学習における音韻情報

教育指導の面から異音同形語を見た場合，音声指導というよりは語彙指導における一つの指導項目として位置づけをするのが妥当である。一つの文字形式が二つ以上の音を持つ現象に対して，音声的な特徴を理解し，発声や聴解に関する能力向上という目的の指導は一般的になされない。一つの文字形式でありながら，それぞれの音によって，全く別個の語として，どのような意味を示し，また用法上どのような特徴を持つのかという点の理解を促すことが指導内容の中心となる。学習者の技能の面から言えば，本稿の 4 章でも少し触れたが，学習者が主に読解において，誤った音の方で認知することを防ぐ。そして，正確な音の方により，その意味・用法を解釈する能力の向上が，指導の主たる目的であると言える。

大学などで展開される中国語教育は通常，授業用テキストが中心に進められる。中国語の語彙指導においては，テキストに明示される「学習対象語（新出語句）―ピンインー訳語（日本語）」という枠組みにて，文字形式（語形式），音韻情報，意味情報を学習者に与える。テキストにおける語の導入について，語に対する意味・用法の面では「訳語」以外に，その他の情報を示すテキストが一部見られる[13]。ただ，音韻情報についてはピンイン表記以外に，その他の情報を示すテキストはほとんど見られない。実際，語の音韻情報はピンイン表記以外にも，様々な学習や指導の対象となる事項が存在する。留学生向けの語彙論教材である万艺玲著《汉语词汇教程》では，語彙学習における代表的な音韻情報が示されている。〈表 1〉は《汉语词汇教程》における音韻情報をまとめたものである[14]。

12） 本書の〈前言〉には以下のような記載が見られる。
为了帮助读者辨析字义并记住字音，本书把一些多音字编成句子或基本押韵的顺口溜，以便上口、好记。

13） 『総合中級中国語教程』，『やさしい中国語中級会話・読み物』などの中級テキストでは，「語釈」の箇所において訳語の他にも，いろいろな語彙情報が付されている。

14） 〈表 1〉の表内の日本語訳は筆者によるものである。

〈表 1〉

表示頁	語彙学習に関する音韻情報
p. 4	语音形式上的联系「音声形式上の関係」
pp. 10–11	外来词-音译 「外来語の音訳」
p. 17	原有的单音节词向双音节靠拢「元々あった単音節語の二音節語化」
p. 18	新出现的多音节词压缩为双音节合成词「新しく現れた多音節語の二音節合成語への縮小」
p. 24	同形同音，形同音不同「同形同音，同形異音」
p. 25	词的轻重音　词的音节「語の軽重音，語の音節」
p. 32	单音节语素　双音节语素　多音节语素「単音節形態素　二音節形態素　多音節形態素」
pp. 33–34	联绵词　译音词　拟声词「連綿語　音訳語　擬声語」
p. 53	词的语音形式方面，叠音词、拟声词、轻声词　一般具有口语色彩「語の音声形式　重ね音語，擬声語　軽声語は一般的に話し言葉のニュアンスを具える」
p. 116	同音词的类型　同形同音词　异形同音词「同音語のタイプ　同形同音語　異形同音語」
p. 117	同音词的运用「同音語の活用」
pp. 118–119	同音词和写别字「同音語と誤字の書写」
p. 141	容易因选错多音字的读音而造成误读的成语「多音字の読み方を誤ることにより生じやすい成語の誤読」

上表にあるような語彙論における音韻情報が，日本で使用される初級或いは中級テキストに明示的学習項目として導入されることは非常に少ない。したがって，教師が学習者に上記のような事項を教えることもほとんどない。前述したようにテキストにおける学習語彙の導入では，音声表記のピンインと意味情報の訳語が示される。ただ，一つの語にはそのほかにも様々な面での情報があり，それらを適宜指導内容に加える余地があると考えられる[15]。門田・池村(2006)[16] では，語彙習得における単語の音韻情報の重要性が指摘されている。英単語の国際音声記号の提示とは性質がやや異なるものの，中国語の場合は簡体字で示される提示語のピンイン表記が音声情報として最も重要であることは言うまでもない。ただ，ピンイン表記に加えて，上表にあるような音韻情報が学習者の語彙習得における単語認知の活性化に影響を与えることは十分に想定できる。

学習者の語彙学習の面に限って言えば，上に示した音韻情報をすべて体系的に取り入れた上

15） 上で示した音韻情報のほかにも，中国語の語は二音節語の後ろが強く発音されるといったストレス（重音）や，荒川（2020：88）に指摘があるように，声調（四声）の順番による語構成などの点も指導項目に取り入れることが可能であると言える。

16） 門田・池村（2006：34–35）は，学習者の単語認知にあたり，音韻情報，形態情報，意味情報が互いに活性化しあうことについて言及している。

で，語彙指導を行うのが理想的である。しかし，教育の実践現場においては数多くの学習項目が存在するため，教師は優先順位を定め，必須のものを選定し，段階的な導入が求められるのが実情である。本稿で取り上げた異音同形語は，上に示した中では，“形同音不同”という見出しで提示があり，“还 hái-huán”の例により説明がなされている。これら複数ある音韻情報の中でも，異音同形語は重要度が高い。中国語の語彙論的知識をほとんど持たず，語彙量が少ない初級段階での学習者に対しても，比較的容易にその導入が可能である。テキストへの導入にあたり，学習ポイントなどの箇所で文法事項と同列に扱うのが難しい場合は，新出語句（語釈）の部分で簡潔な注記や表で示すこともできる[17]。語彙指導における音韻情報の充実という方針にしたがい，初級レベルの指導において異音同形語を明示的学習項目の一つと見なすことが望ましいという愚見を述べたい。

6.2　学習項目の配列・順序の原則性からの考察

音声，語彙，文法のすべての面にわたり，どのような学習項目を指導し，またそれぞれの学習項目のどれを先に教え，次にどれを教えるのかといった配列・順序の問題がある。大学などの授業で中国語を学習する学習者は，おおよそ授業のテキストに明示される学習項目の順序に従って学習を進め，その習得がなされていくと言える。中国語教育において，複数存在する文法項目（“语法点”）をどのように順序立てて教えるのかという議論はよく行われる。文法項目の順序と比較すると大変些細な問題と見なせるが，以下，異音同形語の例を取り上げ，その指導における配列・順序について考察を進めたい。

二つ以上の音を持つ異音同形語に対して，テキストにおいてどちらの音の方を先に示すのがよいのかという問題が生ずる。またテキストの新出語句（語釈）の部分に提示する語のもう一方の音声が既出語である場合，その注記の問題もよく指摘される[18]。例えば，“教”は“jiāo”と“jiào”という二つの音があるが，初級テキストでは一般的にどちらの音声も導入される。“教室”“家教”などの“教”が“jiào”という発音であることを示した後に，“jiāo”という動詞の発音が出てきた場合，新出語句（語釈）の注記として，「既出の“教室”“家教”は“jiào”

17）欧阳国亮，杨春宇（2009：76）は，以下のようにテキストに「異音同形語（本論文では“别义异读字”と称している）」の対照表を付すことを提案している。

> 对别义异读汉字的学习，我们不一定要刻意地去系统罗列讲解，只需在教学中碰到这类字时才加以识别、练习，但这并不意味着我们就不重视这类字的教学。如果我们在编订教材的时候，在汉语教材的后面附一个别义异读字音义对照表，那么对于汉语学习者来说，无疑是很有益处的。

18）郭芃（2016：103）は，「多音字」の指導に関して，二つ目の発音を教える際の教師側から見た以下のような注意点を述べている。

> 遇到这类多音字时，教师应该在教学时遵循及时重复的原则，在教授学生新词的同时，带领学生回顾已经学过的词语。尤其是第二次出现但与首次学习时读音不同的多音字，教师更应该在教授新读音的同时，带领学生及时复习以前学过的读音及词义，做到“温故而知新”。

であるが，動詞で「教える」という意味・用法の時は“jiāo”と発音する」といった内容を表記するのか。つまり，テキストにおける異音同形語のシステム的な情報の付記に関する課題を検討する必要が生ずる。

吕文华（2002）では，対外漢語教材における文法項目の順序・配列に対して作用する以下の5つの要素が示されている[19]。

1. 总体设计「総合的な設計」
2. 教学法理论「教授法理論」
3. 认知规律「認知的法則」
4. 语言自身规律「言語自体の法則」
5. 语言习得规律「言語習得の法則」

ここで対象となっているのは文法項目であるが，テキストにおける順序・配列という同じ視点から，異音同形語について，この5つの原則に基づき，以下で論考を試みたい。

1及び2の法則からは，テキストを使用する教育実践がなされる現場の状況（授業方針，授業形態，授業時間）や学習者の特徴（年齢や言語レベル，学習目的）に応じたカリキュラムや教授法に関する点が指摘される。異音同形語について，これらの側面から考えられることを簡潔に述べると，比較的初級レベルで，かつ構造シラバスに準拠する授業で使用するテキストにおいては，配列・順序をより重視する必要があると言える。また，資格検定試験の対策が指導の中心となる場で使用するテキストにおいても，その重要性が高まる。3の「認知的法則」について言えば，“必须遵循由易到难”「難易度に従って進める必要がある」と示されるように，学習者にとって簡単な方を先に，難易度が高い方を後にすることが求められる。例えば，“看”は，無論のこと“kàn”を先に示し，“kān”はその後に示す。“说”は，“shuō”を先に示し，おおよそ「説得する」という意味のみを示す“shuì”はその後という順序が適当となる。“间”は“jiān”と“jiàn”の二つの音を持つが，HSKの「語彙表」を参照すると，2級で“房间”や“时间”，3級に“中间”がある。“jiān”は比較的初級のレベルで学習する語の中に出てくる。それに対して，“jiàn”の方は，6級で“间谍”“间接”“间隔”があり，上級レベルで学習する語の中に見られる。したがって，難易度を測定すると，当然“jiān”の方の難易度が低く，“jiàn”より先に“jiān”を学習する順序立てが原則に基づくとの判断ができる。4の「言語自体の法則」という面から見れば，使用頻度や項目間の言語的な関係性に応じた配列・順序を決定することになる。例えば，“华”は，“huá”を先に，固有名詞としてのみ使用する“Huà”をその後にする。そのほか，“大”は使用頻度が圧倒的に高い“dà”が先で，“dài”は後にする。“给”には，“gěi”と“jǐ”の読み方があるが，前者は様々な用法があるほか，単独使用が可能であり，語としての機能を具え持つ。それに対して，後者は一般的に単語の構成要

19） 吕文华（2002：87）を参照した。五つの原則の日本語訳は筆者によるものである。

素の形態素としての機能しかなく，単独で用いられることがない。そのため，言語自体の側面から重要度を測定すれば，前者の“gěi”がより重要で，順序的には先に示すことが妥当となる[20]。5の「言語習得の法則」という面から言えば，まず学習者に対して習得状況についての調査を行う必要がある。文法項目ほど習得順序を明確にすることは難しいと考えられるが，調査結果の蓄積と解析により，何らかの方策が見出せる可能性があると言える[21]。

7. 日本人学習者に対する「異音同形語」の指導について

本章では，日本人学習者に対する異音同形語の指導について，主に漢字の知識を持つ学習者の字義の理解度という面に焦点を当てて論考する。

7.1 語義の類推に応じた「異音同形語」の指導について

周知のとおり，日本人の中国語学習者は語彙学習において文字から受ける影響が大きい。読解などの言語活動において，未知語（未習語）に対して，字義から語義の類推をする傾向が強い[22]。日本人学習者にとって字義からの類推が可能である中国語の単語は，そうではない単語より習得度が高いことが知られている。このように日本人学習者の字義からの類推を基準にすると，中国語の異音同形語は，以下の〈表2〉のように三つに分類することができる[23]。

〈表2〉

字義からの類推	異音同形語の例
両方とも類推可能	重 教 长 分 盛 弹 少 传 降 乐 切 行 好 调 兴
一方が類推可能	只 打 挑 都 没 累 地 着 宿 度 朝 泥 得 鲜 头
両方とも類推不可（或いは困難）	还 假 把 卡 系 喝 划 闷 几 胖 吧

この中で指導上，とりわけ注意を払う必要があるのは，二番目の「一方が類推可能」である

20）「異音同形語」は一種の語彙論における事項であると見なせる。そのため配列・順位の決定に対しては，この4の「言語自体の法則」が，最も直接的な関連性が認められると判断する。

21） 万莹，赵贤德（2011），郭芃（2017）では中国で中国語を学習する長期滞在留学生に対して，「多音字」に関する能力考査やアンケート調査が行われている。

22） 日本人学習者の字義からの類推については，主に李冰，古川裕（2020）を参照した。

23） この三つの分類はすべて筆者によるものである。本分類について，日本語の漢字体と中国語の簡体字の字形の差異は度外視している。つまり，学習者は“乐”が（楽）の文字に対応するという知識を持っているということを前提にしている。また，字義からの語義の類推について，厳密に言えば，一つの単語における複数の意味項によって類推が可能かどうか異なる。また，同じ日本人学習者でも，語義の類推には個人差が生ずることが考えられる。

タイプであると筆者は考える。日本人学習者は，もちろん個人差はあるものの，例えば“打 dá-dǎ”，“只 zhī-zhǐ”，“挑 tiāo-tiǎo”などに対して，それぞれ“打 dǎ”「動詞（打つ）」，“只 zhǐ”「副詞（ただ）」，“挑 tiǎo”「挑む」の方は，日本語で使用される漢字の字義から，語義の類推が一定程度可能である。ただ，もう一方の“打 dá”「量詞（ダース）」，“只 zhī”「主に小動物を数える量詞」，“挑 tiāo”「動詞（選ぶ）」の方は語義の類推がほとんど不可能である。また学習語としての難易度を測定した場合，必然的に後者の方が前者より高くなる。学習者が“dá”，“zhī”，“tiāo”を使用するにあたり，日本語と同じ方の発音の印象が強いことから，もう一つの“dǎ”，“zhǐ”，“tiǎo”の方で発するという誤用が生ずる蓋然性が高いと考えられる。日本語の字義により，学習者の心的辞書における強固な記憶として留まり，語彙使用の際のアクセスが容易になるのは，“dǎ”，“zhǐ”，“tiǎo”の方であると言える。そのため，日本人学習者への指導については，もう一方の“dá”，“zhī”，“tiāo”の方をより強調し，繰り返し提示するなどの方策が必要となる。

「両方とも類推可能」である例に対しては，初出の段階で，例えば“重”の発音は，“zhòng”の時が「重い」，“chóng”の時が「重ねる」というように，意味・用法の違いによって音が異なるという知識を持つことが望ましい。この知識を応用すれば，その後，“重要”，“注重”という単語を学習する際，その中の“重”が「重い」という意味であるとの判別ができれば，その発音は“zhòng”である。一方で，“重复”，“重新”については「重い」ではなく，「重ねる」という意味であるため“chóng”という判断が容易となる。また，二つの音により品詞的な相違があるようなタイプの異音同形語に対しても，初出の段階で，例えば“教”は“jiāo”のときが動詞性である。一方，“jiào”の時は名詞性であるということを示すのが良い。そうすれば“教室”，“教师”，“教育”などの名詞を構成するときは“jiào”，“教英语”，“教书”など動詞性のフレーズを構成する際は，“jiāo”であるという判断が容易になり，誤用を減少させ，学習上の負担も軽減できると言える。これらは，語がもつ音韻情報の獲得が学習後の定着度の向上に寄与する典型的な事例の一つとして認識できる。

表の一番下の「両方とも類推不可（或いは困難）」の例に対しては，上の二つのタイプとは異なる指導方法を提起したい。“还”という字からは「huán-返す」「hái-まだ（さらに）」というどちらの意味の類推も不可能である。このように，二つの間の意味・用法がある程度乖離していて，文字形式は同一でありながら，字義からの類推ができないような例は，全く別個の二つの語として学習者に認識してもらう方が効果的であると言える。つまり，“还 hái”という語の学習に際しては，もう一方の“还 huán”の存在を意識させることは指導上行わないのが良い。初出の時に，もう一方の語としての発音があることには触れない。また“还 hái”が既出の状況で“还 huán”を学習する際にも，前に習った例の方にはあえて触れないという指導上の方策を提起したい。

上述した内容を，以下の〈表 3〉にまとめる。

〈表 3〉

字義からの類推	指導の方法と内容
両方とも類推可能	初出の段階で，同時に二つの例をまとめて，それぞれの音の違いに拠り，意味・用法が異なることを明示的に指導する
一方が類推可能	字義からの類推が不可能な例の方を特に強調して指導する。テキストにおいては繰り返し提示する，練習問題に用いるなどの工夫をする
両方とも類推不可（或いは困難）	二つの音があることについて，明示的な指導は行わない。学習者に異音同形語であることを意識させず，別個の語として学習できるよう指導する

このように同じ異音同形語であっても，指導においては一律に扱うことはしない。その性質により異なる視点から，学習者の状況に合わせて，各々の指導方法や内容を見出す必要性があることを指摘したい。

7.2　単語の構成要素と字義の観点から見る「異音同形語」の指導について

“只”や“长”のように二つの音声がどちらも単独で使用できる例は，初出の時に二つの音が表す意味・用法を明示的に指導することが比較的容易である。しかし，異音同形語の中には“行”などのように一方の音声が多くの場合，単独では使用されず，“銀行”のような単語の構成要素として，最初に学習する例がある。このような場合は，初出の時にこの多音の現象を明示的に指導することが容易ではなく，またその妥当性も慎重に考えなければならない。日本人学習者は一般的に単語の構成要素である形態素（漢字）から語義の類推が可能であり，さらに日中同形同義語の存在から中国語の未習語についてもある程度の知識を持つ。そのような日本人学習者に対しての指導に限定すれば，以下に述べるような点が指摘できる。

一般的に初級レベルの学習者は，例えば，“行”という字（形態素）の発音が「“行”xíng（行く，行う，よろしい）-háng（商店，業種，行・列）」であり，一つの文字形式が二つの意味・用法により発音が異なるというような学習経路はたどらない。ほとんどの学習者は通常，新出単語として“銀行”を学習する際，その中の“行”が“háng”という音であることを知る[24]。その後，もし“行”を“xíng”と読む単語が使用しているテキストに出てこなければ，学習者は“行”を“xíng”と読むこともあるという知識がない状態が一定期間続く。このような場合，一字一音という事例が大多数を占める中国語においては，学習者がその後の学習過程で“行走”，“行程”，“行为”などの語における“行”もすべて“háng”であると誤解してしまう蓋然性は高い。“銀行”の影響を受けて，同じ位置にあるとりわけ二音節語の後ろに“行”があ

24）日本で出版された 20 冊の授業用初級テキストを調べたところ，そのうちの 12 冊のテキストで，初出の“行”は“银行”という単語における“háng”の発音であった。

る例（“旅行”“纪行”“流行”など）については，より誤解や誤読につながることが多いとの想定もできる。また，別の面から言えば，“行”の音が“háng”であることを“銀行”という二音節語の中から学習するという過程を経た場合，学習者は“銀行”という単語に対して総体的な理解をする。そのため，“銀行”の“行”が「商店（業種）」を示すといった構成要素（形態素）としての意味の認識に至る学習者は少ない。そうすると，“内行”，“同行”，“商行”といった単語における発音が“háng”であることの類推や理解も難しく，学習後もその定着度の低下を招くことが懸念される。

また，“銀行”のように日本語と同形同義語の場合は，学習者の心的辞書に強固な記憶として留まり，定着度が高い。そのため，その後に“行”の字に“xíng”があることを学習しても，最初に習った“行 háng”の意識が強ければ，“行 xíng”に関する音声とそれに伴う意味・用法の習得がやや困難になるという学習者の状態も推測できる。間接的ではあるが，日中同形同義語の中国語語彙学習に対する一つの負の転移であると捉えることができる。学習者が使用するテキストの初出の段階で，基本的に「“行”xíng（行く，行う，よろしい）-háng（商店，業種，行・列）」というような二項対立的な関係を学習しなければ，上述したような問題が生ずる。実践的な場における異音同形語の指導とテキストへの導入についての示唆として，これらの問題点を提起したい。

次に“乐（楽）”について述べる。“乐”は“yuè”，“lè”の二つの音を持つが，多くの学習者は最初に“音乐”という単語の中の発音として，“乐”は“yuè”であることを学習する[25]。学習者が“乐 lè”の方の読み方を未習の間は，その後“快乐”，“游乐园”，“俱乐部”等の語における“lè”を“yuè”と解釈してしまう誤解が生じやすくなる。“銀行”の例と同様に，“音乐”は日本語の「音楽」と同形同義語であり，学習者の学習後の定着度は比較的高い。そのため，その後“乐”には“lè”の音もあることを学習したとしても，最初に習った“乐 yuè”の意識が強ければ，“乐 lè”の習得が困難になると推測ができる。

また，“銀行”の例と同様，“音乐”の構成要素として“乐 yuè”という学習過程を経た場合，普通は単語として総体的に理解する。そのため，“乐 yuè”が「音楽」を示すといった構成要素としての意味への認識に至る学習者は少ない。さらに言えば，日本人学習者が「乐（楽）」という漢字から類推や連想する意味はどちらかと言えば，「楽（らく），楽しい」であると考えられる。そうすると，“乐器”，“奏乐”，“乐团”といった単語における発音が“yuè”であることの理解が難しく，既習語としての定着度もより低下してしまうという別の面での問題も指摘できる。初出の段階で，明示的学習項目として，“乐”の発音は基本的に「楽しい」の意味を示す時が“lè”，「音楽」の意味を示す時は“yuè”であるというように，意味・用法の違い

25） 日本で出版された 20 冊の授業用初級テキストを調べたところ，そのうちの 11 冊のテキストで，初出の“乐”は“音乐”という単語における“yuè”の発音であった。

によって音が異なるという知識を与える。そうすることで，異音同形語がもたらす学習者の負担を軽減し，誤用を防止することが期待できる。

8. おわりに

以上，本稿では「異音同形語」を取り上げ，主に日本人学習者を対象とした指導について，語彙論における事項に基づき考察を行った。語彙論における音韻情報としての学習事項，学習者の第一言語に伴う言語知識，テキストや辞書の編成や提示内容，初級段階における語彙指導など，多方面から総合的な論考を行なったが，依然として未解明な問題が多く残った。今後は，学習者の異音同形語の知識や意識を測るアンケート調査（言語テスト）を行ない，実証的な分析とともに本課題の解明についてさらに研究を進めていきたい[26)]。日本語の常用漢字の大多数が複数の読み方を持つのと比較すると，中国語の異音同形語は常用語（字）全体における比率は高くない。そのため，初級レベルにおいて重要な学習事項であるという学習者と教師の双方の意識が希薄になるのかもしれない。ただ，学習者の語彙学習において不可欠で重要性が高いことを疑う余地はない。言語技能の向上を中心とした授業の中で，このような言語知識の教授をどのような方法で，またどの程度行うのかという課題の解決を前提としながら，具体的な異音同形語の指導内容と方法についてさらに追求していきたい。

＜主要参考文献＞

荒川清秀（2020）.『漢語の謎――日本語と中国語のあいだ』ちくま新書
上野恵司監修，李錚強著（2016）.『総合中級中国語教程（改訂版）』白帝社
門田修平，池村大一郎（2006）.『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
喜屋武政勝（2003）. 語彙・辞書の指導――「語彙論の指導」と「単語指導」,『国文学解釈と鑑賞』68 巻 1 号：124-132 頁
黄名時（2004）.『普通話異讀詞審音表』の審音背景――北京語の異読の実勢,『平井勝利教授退官記念中国語・日本語学論文集』白帝社：113-139 頁
曽根博隆（1989）.“普通话”における多音字について,『明治学院論叢』（438）：21-53 頁
豊嶋裕子（2006）.『やさしい中国語中級会話・読み物』光生館
山下輝彦（1998）. 关于汉语教学中的正音问题,『慶應義塾大学語学視聴覚教育研究室紀要』第 31 号：96-109 頁
安华林，刘娅琼，安妮，李玉晶（2020）.《汉语学习词典多维研究》暨南大学出版社
曹炜（2004）.《现代汉语词汇研究》北京大学出版社
郭芃（2017）. 留学生多音字学习难度调查分析及多音字误读原因浅析《课程教育研究》43 期：74-76 页

26） 本研究の計画の段階では，日本人学習者に対して「異音同形語」に関する理解度の調査を行なう予定であった。本年度発生した感染病の流行によるキャンパス閉鎖や授業のオンライン化という非常事態が長期間続いたため，その実施は断念せざるを得なかった。

郭芃（2016）. 新 HSK 词汇大纲（1 级 -3 级）中的多音字归纳及教学建议《高教学刊》20 期：101-103 页
李冰，古川裕（2020）. 语素因素对日语母语者汉语词汇习得影响研究——以日语单音节动词形容词为例《汉语学习》1 期：84-92 页
李行健主编（2012）.《现代汉语多音字规范字典》上海辞书出版社
林山森，林挺编著（2016）.《现代汉语多音字多音词辨析字典》上海辞书出版社
刘珣主编（2011）.《新实用汉语课本 3》北京语言文化大学出版社
吕文华（2002）. 对外汉语教材语法项目排序的原则及策略《世界汉语教学》4 期：86-95 页
茅海燕编著（2016）.《魅力汉语（综合第五册）》江苏大学出版社
欧阳国亮，杨春宇（2009）. 浅谈对外汉字教学中别义异读字的教学《民办教育研究》11 期：74-77 页
申慕野（2013）. 初级阶段留学生汉语单音节同形异音词偏误分析及教学对策《社研纵横（新理论版）》4 期：365-366 页
万艺玲（2000）.《汉语词汇教程（三年級）——对外汉语本科系列教材》北京语言大学出版社
万艺玲（2010）.《汉语词汇教学》北京语言大学出版社
万 莹，赵贤德（2011）. 留学生异读词读音情况的调查与思考《湖南工业大学学报（社会科学版）》第 16 卷 2 期：126-128 页
余培英编著（2012）.《多音字学习手册》商务印书馆